

はじめに

熊本大学沿岸域環境科学教育研究センターは、主に有明海・八代海を対象に、沿岸域の自然環境の現状把握と保全に関する研究を行っている組織です。しかし、沿岸域が抱えるいろいろな課題を解決するためには、自然環境に関する研究だけでは難しい面もあります。それは、沿岸域が人間活動の影響を強く受ける環境だからです。

「閉鎖性海域における豊かな自然環境・社会環境創生のための先端科学研究・教育の拠点形成」は、今年度よりスタートしたプロジェクトです。当センターのメンバーを中心に、社会環境についてもしっかり取り組んでいこうという主旨の下、結成しました。

閉鎖性海域は、流入河川の影響を大きく受ける環境です。そのため、流域をどのように保全・再生するかが、プロジェクトの大きなテーマです。研究者だけでなく、行政や企業、市民の皆さんと一緒に考え、取り組んでいくことが重要だと考えています。

当プロジェクトが有する科学的データに基づき、大学・行政・企業のノウハウを生かし、実践的な取り組みを進めてまいります。今後とも、どうぞよろしくお願いたします。



熊本大学沿岸域環境科学
教育研究センター
センター長・教授
熊本大学拠点形成研究
プロジェクトリーダー

逸見 泰久



Contents

はじめに	01
プロジェクト概要	02
キックオフシンポジウム	
閉鎖性海域における豊かな自然・社会環境の創生を考えるシンポジウム	
講演1 堂蘭 俊多氏(国土交通省八代河川国道事務所長) 「球磨川の河口域における自然再生に向けた取り組み状況について」	04
講演2 皆川 朋子氏(大学院自然科学研究科准教授) 「熊本県の河川環境の特徴とその保全」	04
講演3 逸見 泰久氏(沿岸域環境科学教育研究センター教授) 「熊本県におけるハマグリ の生育状況と資源の利活用」	05
講演4 松崎 勝己氏(NPO法人きらり水源村) 「持続可能な地域づくりと体験型環境学習について」	05
パネルディスカッション 「豊かな自然・社会環境創生のための協働について」	06
Pick up	
平成26年度キックオフシンポジウムアンケート集計結果	08
Report	
球磨川流域における研究活動報告	09
ミャンマー連邦共和国における研究活動報告	11
台湾とのハマグリ共同研究	13
学会参加報告	14
プロジェクトメンバー紹介	15

閉鎖性海域における 豊かな自然環境・社会環境創生のための 先端科学研究・教育の拠点形成プロジェクト



1. 拠点の概要

有明海・八代海をはじめとする閉鎖性海域は、自然環境の悪化、洪水・高潮などの災害の頻発化、過疎化・少子高齢化といった緊急に解決しなければならない多くの課題を抱えています。これらの課題を解決し、「豊かな自然環境・社会環境を創生」するために、先端的かつ広範な研究分野の研究者で拠点を形成しました。今後3年間は、特に河川・沿岸域の再生・創生に焦点を当てた研究・教育を推進します。

また、これらの研究は、国内だけでなく、インフラ整備が急速に進み、同様の課題を抱えるアジア・アフリカ地域などへも貢献するものです。

2. 拠点の研究について

拠点形成の背景

有明海・八代海をはじめとする沿岸環境の保全に関する研究の多くは、未だ基礎データ収集や現況把握の段階にあり、環境修復・創出や持続的利用に向けた具体的な研究は緒に就いたばかりです。しかし、有明海・八代海的环境回復は緊急の課題であり、行政も具体的な環境改善策の実施を模索している段階です。

現在、国内の河川・沿岸域では、高度成長期に作られた堤防やダムなどの改築等が進んでいますが、新たに造成される構造物は、自然災害に対する防災機能だけでなく、地域の自然環境・社会環境との調和が取れたものにする必要があります。

このような背景から、本拠点では新たなメンバーを加え、河川・沿岸環境の健全なマネジメントを目的に、自然環境・社会環境を構成する諸要素および人間生活との相互関係を、自然・産業・歴史・文化・風土・景観等をふまえて解明、「人間生活と共生した河川流域・沿岸環境の再生・創生」を目指す新たな学問領域の拠点形成を図ります。

有明海・八代海的环境保全に関する研究は、地元である熊本大学に科せられた課題であり、また沿岸環境に関する研究は、熊本大学が世界的な拠点となり得るテーマでもあります。さらに、沿岸環境を保全するには、陸域・河川も含めた流域生態系の把握とマネジメントが不可欠です。

河川流域・沿岸環境の現況把握に加え、収集データの解析や具体的な環境修復・創出といった、より進んだ段階の研究を行い、世界的な拠点形成を目指します。